

～ アートの力を医療の現場へ ～

神戸医療産業都市内の病院群に対する アートプログラム



サポートのお願い

神戸文化創生都市宣言

- わたしたちは、豊かな自然と美しい都市景観を待ち、歴史を刻みながら発展してきた心かよう市民のまち、神戸を誇りにします。
- わたしたちは、未曾有の震災を体験し、共有した思いやりや学んだ芸術の力を、神戸の文化として次世代に伝え、世界へと発信します。
- わたしたちは、地域や暮らしの中で世界の文化と交流し、多様な価値観を認めあいながら、常に未来に向かっていきいきと進化するまち、神戸を創ります。

2004年(平成16年)12月4日

お問い合わせ

神戸市 市民参画推進局 文化交流部

TEL:078-322-6453/FAX:078-322-6137

E-MAIL:bunka@office.city.kobe.lg.jp

公益財団法人 神戸市民文化振興財団
事業二部 文化振興課

TEL:078-351-3597/FAX:078-351-3121

E-MAIL:shinkou@kobe-bunka.jp

「医療+アート」プログラム

プロのアーティストによる音楽演奏などのアートプログラムを、病院で治療を受ける患者様やそのご家族様を対象にして定期的にお届けします。2015年にスタートして以来、アーティストが各参加病院を訪れ、受付ロビーや病棟でコンサート等を実施し、多くの患者様に喜んでいただいています。

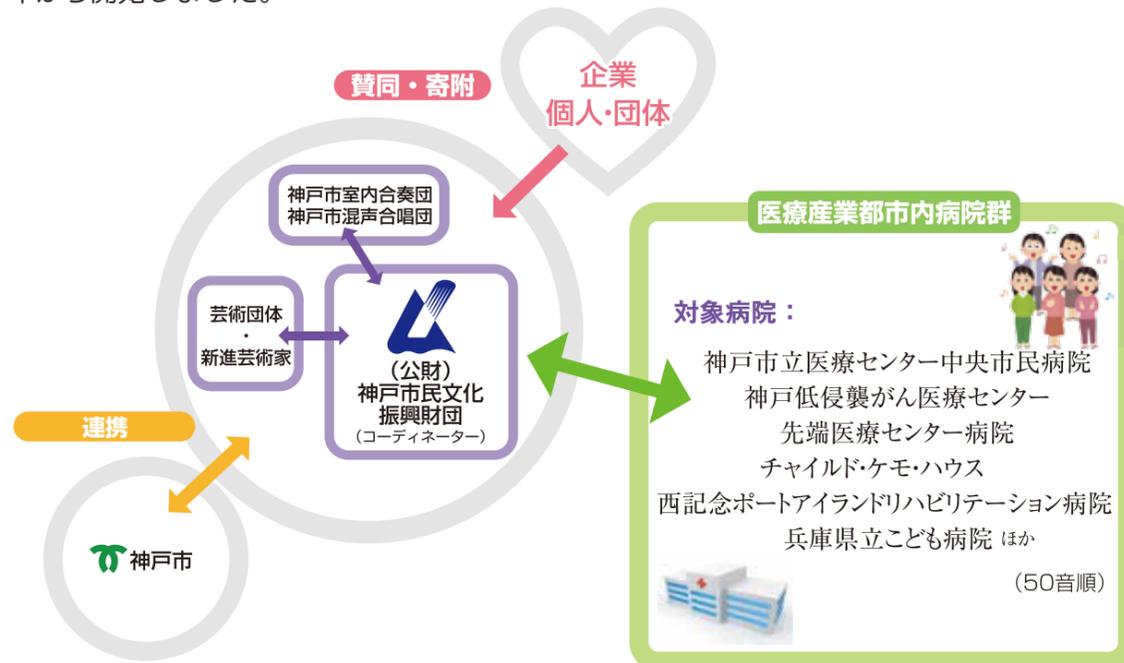
「医療+アート」は病院という非日常的な環境で、患者様が音楽などのアートを通して少しの間でも日常を取り戻し、明日に向かって「生きる力」を生み出すお手伝いをしたいと考えています。

事業概要 project outline

私たちは、震災の経験から、芸術が心を癒し、生きる希望を与えることを学びました

阪神・淡路大震災から10年を経た2004年、神戸市では震災から学んだ「芸術の力」を次世代に伝え世界へ発信するため、「神戸文化創生都市」を宣言し、様々な文化プログラムに取り組んできました。

「芸術の力」は、入院、闘病といった、人びとが日常の暮らしから引き離されざるを得ない医療現場においても、大きな力を発揮すると私たちは考えます。そこで、復興の柱として医療産業の集積を進めている「神戸医療産業都市」内の病院群を舞台に、患者様とご家族にアートを届ける事業を、2015年から開始しました。



事業の特徴

- コーディネーターが芸術団体/アーティストと医療機関とを橋渡しし、事業を統括します。
- 神戸医療産業都市内の病院の集積を活かし、一日で複数の病院へ効率よくプログラムを届けます。
- プロのアーティストによる質の高いプログラムを年間を通じて定期的実施します。
- アーティストの劇場とは違う表現の場を創出するとともに、地域の文化・芸術活動の活性化につなげます。

『病院組曲』～ヴァイオリンとピアノのための組曲～

「医療+アート」プログラムのオリジナル曲として、関西の若手作曲家である足立知謙氏に委嘱しました。病院の患者様やご家族の気持ちが晴れるような明るい曲でありながら、病院の様々なシーンを愉快地に描写した楽しさも持ち合わせています。

「病院組曲」は全国の病院やアーティストの皆様にも広く演奏していただき、より多くの医療現場にアートを届けたいという思いから、WEBにて公式演奏を公開しています。神戸発の「病院組曲」が全国へ広がっていくことを願っています。

URL <http://www.kobe-bunka.jp/>

神戸市民文化振興財団 検索 詳細はホームページをご覧ください。
※2017年4月公開予定



西記念ポートアイランドリハビリテーション病院での演奏

内容

1. 病院組曲 ～ 前奏曲
2. 救急車は大急ぎ
3. テキパキお仕事看護師さん
4. 注射の嫌いなオトモダチ
5. 手術室のベストメンバー
6. 待合室のおしゃべりさん
7. 院長先生、回診の時間です。
8. 命のテーマ
9. 医療事務員さんの恋心
10. 早く良くなれおまじない ～ 後奏曲

編成 ヴァイオリン、ピアノ

時間 全部で約18分/各曲1～2分程度

初演 2016年6月27日、30日



平成28年7月9日(土)神戸新聞朝刊

医療機関からのメッセージ

バイオリンとピアノの演奏や、歌のコンサートを院内で開催していただき、本当に有り難うございました。当院はがん医療の専門施設で、長い闘病生活の中で身体が弱り、心も折れそうになっている患者さんが沢山入院されています。病院では、抗がん剤や放射線という本来は人の身体に有害なものを投与して、長い時間をかけてがんを治しています。これに対して音楽は、患者さんに一切負担を与えず、数分間という短い時間で患者さんの気持ちを変えることが出来ます。気持ちが明るくなると身体にも効果が現れ、免疫力が高まって、がんの治療にも役立ちます。患者さんやご家族に大変好評なこのプログラムを、今後も是非続けていただくようお願い致します。

神戸低侵襲がん医療センター
理事長・病院長 藤井 正彦

※このメッセージは2015年11月にいただきました。



神戸市民文化振興財団のお世話で、平成28年は4月27日(水)、6月30日(木)、7月25日(月)8月31日(水)12月15日(木)の5回、院内ミニコンサートを開催していただきました。

神戸は宮城道雄生誕の地で日本のジャズ発祥の地ともいわれるのにふさわしく、箏曲、尺八、による邦楽、懐かしの小学校唱歌、ヴァイオリン、ピアノ、ホルネット、リュートによるバロッククラシックからシャンソン、ジャズ、クリスマスソングさらにオリジナルの病院組曲まで、名だたる演奏家の方々が温かく患者さんのことを思って演奏してくださいました。パリ留学経験のある重症頭部外傷の方は、発語できなかったのがフランス語を口ずさまれ、意思疎通がほとんどできない奥様を熱心に世話されているご主人は若いころ嵌まったジャズを聴いて感激されていました。

患者さまとその御家族から職員に至るまでこのコンサートを楽しみにし、生きる力をもらっています。

西記念ポートアイランドリハビリテーション病院
院長 小澤 修一

※このメッセージは2017年1月にいただきました。



参加者からのコメント

はじめてこの病院に来た日にこの音楽聴けてよかったです。これからお世話になるので幸先が良いとポジティブ思考になれました。
(ソプラノとバス)

フルートはいやしの楽器ですね。エネルギーをもらいながら、やさしさにあふれ、心地よい気持ちにしてくれました。
(フルートとピアノ)

すごく素敵な劇ありがとうございました。たくさんのつらい事を、また頑張ろうと思いました。おもしろかった!
(人形劇)

思いがけず、生の演奏で心にとびこんできました。それぞれの音色の鋭く温かく…感動でした。ありがとうございました。
(琴と尺八)

感動して、涙があふれました。病む夫に寄り添い七年目を迎えています。私の体に元気を貰いました。これからも頑張れる力を頂きありがとうございます。
(ジャズ)



活動実績

activity

音楽、落語、人形劇など多様なプログラム



新春寄席



ソプラノとバス



古楽器アンサンブル



フルートデュオ



ヴァイオリンとピアノ



ソプラノとバス

神戸大使からのメッセージ



神戸には、1999年から2012年まで通いました。音楽仲間とともに1・17の復興支援コンサートに参加して、私は朗読をさせて頂きました。人が集うところに美しい調べがあり、温かな言葉がある。辛いこと、悲しい気持ちも共有すれば、新しい力がわいてくる。続ければ皆でつながっていく。その思いは今、東北へと引き継がれています。

音楽がどんなに心を癒してくれるかは、旧くはダビデのつま弾く豎琴の音色がサウル王の心を和やかにしたことで知られていますね。音楽や語りによるふれあいは、病気やけがとたたかっているご本人はもちろん、ご家族にとっても愉しく大切なひとときです。そこで生まれた笑顔は、病院で働く医療スタッフにも元気を運んでくれることでしょう。これからの神戸、いえ日本の健やかな未来のために「医療+アート」プログラムがもっともっと広まり、そして深まっていますように。神戸大使の1人として私も応援しています。

竹下景子(俳優)



音楽には力(パワー)があります。

私は幼い頃から歌を書き続け、歌い続けています。音楽があるところに人が集まり、音楽は心に寄り添い、癒し、励まし、人と人を繋ぎ、笑顔の輪が広がっていくのを感じます。

聴いてくださる方だけでなく、演奏し、歌う側も人々と共有する音楽、時間、気持ちに癒され、励まされ、強くなれます。いろいろな世代の人々、様々な立場の人々が出会い、思いや知識を分かち合い、何よりも楽しみを見つけられる、そんな居場所があることは、とても素敵なことです。

音楽に溢れ、人々が集い、優しい笑顔が広がる「医療+アート」プログラム。そんなプログラムを、私、平松愛理は応援します。

平松愛理(シンガーソングライター)

神戸医療産業都市とは

神戸市は、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で大きな被害を受けた経済を立て直すため、震災復興事業として「神戸医療産業都市構想」を始めました。

震災で「いのちの大切さ」を改めて知った神戸のまちが、人工島「ポートアイランド」に新たな産業を興し、市民の皆さまの命を守り、国際貢献を目指すものです。

現在では、ポートライナー「医療センター」駅周辺に、330社を超える研究機関・病院・医療関連企業が集積し、我が国最大の医療産業クラスターに成長しています。

今後も、国家戦略特区に加え、国が実施する「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム」等を活用しながら、iPS細胞を用いた再生医療や革新的医薬品、医療機器等の実用化、「京」の運用及びポスト「京」設置に伴う施設整備支援、(仮称)神戸アイセンターの整備など様々なプロジェクトを推進し、成長を続けていきます。世界を変える革新的な研究成果・医療技術を生み出す体制が整い、新たなステージへと進んでいます。



ぜひ、企業のCSR活動のひとつとして、「医療+アート」をご活用ください



寄附のお願い donations

「医療+アート」は皆様の寄附によって支えられています

「医療+アート」は、病院の規模や財力に関わらず、全ての患者様にこのプログラムをお届けしたいという想いから、各病院にかかる負担を可能な限り軽くする仕組みを構築し実践しています。多くの患者様やそのご家族、また患者様を支える医療機関スタッフにプログラムを届けるために、皆様の積極的なご支援をお願いいたします。



申し込み・問い合わせ先

公益財団法人 神戸市民文化振興財団 事業二部 文化振興課

Tel : 078-351-3597 / Fax : 078-351-3121 / e-mail : shinkou@kobe-bunka.jp

添付の申込書をお送りください。折り返し振込用紙(手数料無料)を送らせていただきます。

詳細な説明が必要な場合等、お気軽に上記までお問合せください。

※1 当財団への寄附金は、「公共法人等のうち、教育又は科学の振興、文化の向上、社会福祉への貢献その他公益の増進に著しく寄与するものと認められた特定公益増進法人に対する寄附金で、その法人の主たる目的である業務に関連するもの」にあたり特定寄附金として扱われます。

※2 所得税法施行令第217条第3号に基づき公益財団法人は、特定公益増進法人と定められています。